

ハマフエフキの種苗生産・中間育成

近藤忍・中村博幸・立津政吉

1. 目的

ハマフエフキ養殖用種苗(全長 50mm ~)を要望に応じて生産・供給する。

2. 方法

種苗生産に用いた受精卵は、栽培漁業センターの生簀で養成した親魚を使用し、7.8 ~ 8 千粒/klを目安に収容した。生産水槽には、魚類甲殻類棟の 100kl水槽(通称 S 池) 2 面と魚類棟の 100 kl水槽(通称 C 池)1 面を用いた。

飼育海水は、砂濾過海水を紫外線殺菌処理したものを使用し、日齢 46 を目安に砂濾過海水を使用した。注水開始は日齢 3 から行った。その後、徐々に注水量を増やし、日齢 14 で1回転、日齢 23 で 2 回転、日齢 46 で 4 回転となるように調整した。

通気は、100kl水槽 1 面で 12 個のエアーストーンを用いて行った。通気量は、孵化から日齢 18 まで微通気で、それ以降は徐々に通気量を増やした。

ワムシは T 型ワムシと S 型ワムシを大型水槽で培養し、二次培養水槽(1klアルテミア孵化槽)にて栄養強化したものを用いた。T 型ワムシは、日令 3 ~ 25 まで、S 型ワムシは、日令 18 ~ 34 まで給餌した。栄養強化剤はスーパー生クロレラ V12 (0.3 l/億個体)を用い、強化時間は 6 ~ 16 時間とした。ワムシの給餌は、飼育水槽中のワムシ密度を日中 3 回(8:00、11:00、15:00)測定し、その密度を 5 ~ 10 個体/mlに戻すようにした。

アルテミアは中国産耐久卵を溶殻処理して使用した。日齢 29 ~ 44 まで養成アルテミアをスーパーカプセルパウダーで 6 ~ 9 時間栄養強化し与えた。アルテミア給餌量の増減は、給餌からアルテミアが飼育水槽中に観察されなくなるまでの経過時間で調整した。アルテミア給餌と併せて冷凍コペポダを適宜給餌した。

配合飼料は、日令 22 に給餌を開始した。給餌初期はラブラーハ 1 号などの初期餌料を適時に手撒きし、数日後からは自動給餌機を用いて与えた。配合飼料の給

餌量や粒径は、飼育個体の摂餌状態、残餌量及び成長を勘案して調整した。

底掃除は、日令 1 以後に 6 ~ 7 日間隔で行い、25 日頃からはほぼ毎日行なった。飼育個体数は、夜間直径 5cm の塩ビパイプを用いて水槽周囲 4 ヶ所と中央 1 ヶ所を適時に柱状サンプリングし、容積法にて推定算出した。

中間育成において、中国産コペポダは取り上げまで飼育数に応じて数百グラムを1日数回に分けて与えた。配合飼料は魚の成長に合わせ、おとひめ B2 ~ C2 を混ぜ合わせたものを与えた。総投餌量は飼育水槽中の平均全長と総魚体重から決定した。平均全長 30mm 前後で総魚体重の 10%前後、同様に 50mm 前後で 7%前後、60mm 前後で 5 %前後の餌を与えた。ただし、魚の様子や池の状況を勘案し、適宜増減した。

3. 結果

種苗生産は、2011 年 4 月 14 日、2011 年 5 月 2 日、2011 年 5 月 18 日の 3 回の収容を行った。計 3 回で収容した受精卵は合計 23,800 千粒で、22,468 千個体の孵化仔魚を得た。取り上げは日齢 55 ~ 62 の間で行い、平均全長 28.7 ~ 34.2mm の種苗を計 302 千個体生産した。放流用種苗は、平均全長 26.1 ~ 56.2mm の範囲で 11.4 万尾出荷した。養殖用種苗は、養殖業者の大型種苗要望の増加や、奇形個体を極力排除するために小型種苗を要望した一部養殖業者を除き、中間育成後に 59mm 以上の大型種苗を出荷した(表 1)。各回次とも PCR 法によるイリドウィルスの感染は確認されなかった。

中間育成は 50 kl水槽 3 面に約 7.8 万尾収容した。平均全長 40.9mm の種苗 5 千尾と平均全長 59.5 ~ 72.4mm の種苗 4.7 万尾を養殖業者の要望どおりに配布することができた。

表1 平成23年度ハマフエフキの種苗生産及び中間育成結果

| 魚種名 | | ハマフエフキ | ハマフエフキ | ハマフエフキ | |
|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 生産回次 | | 1 | 2 | 3 | |
| 生産計画 | | 30:100 | 30:100 | 30:100 | |
| 水槽 | 卵収容日 | 4月14日 | 5月2日 | 5月18日 | |
| | 卵収容数 | 8040 | 7870 | 7890 | |
| | ふ化日 | 4月15日 | 5月3日 | 5月19日 | |
| | ふ化率 | 85.7 | 141.8 | 55.9 | |
| | 開始時水槽 | 100 | 100 | 100 | |
| | 仔魚収容数 | 6888 | 11160 | 4420 | |
| | 開始密度 | 68.8 | 111.6 | 44.2 | |
| | 1 飼育日数 | 62 | 60 | 55 | |
| | 次飼育 | 取揚全長範囲 | 23.8-52.4 | 19.8-41.9 | 22.2-50.1 |
| | | 取揚平均全長 | 34.1 | 28.7 | 34.2 |
| 取揚尾数 | | 97 | 103 | 101 | |
| 生残率(ふ化) | | 1.4 | 0.9 | 2.2 | |
| 分槽時全長 | | 34.1 | 19.6 | 34.2 | |
| 使用水槽総数 | | 100 | 100 | 100 | |
| 取揚密度 | | 0.9 | 1 | 1 | |
| 飼育水温 | | 24 | 24 | 25 | |
| 2 開始密度 | | 0.52 | | | |
| 次飼育 | | 生簀規模 | | | |
| | 水槽規模 | 50*3 | | | |
| | 飼育日数 | 38 | | | |
| | 生残率(2次) | 81.7 | | | |
| | 取揚密度 | 0.42 | | | |
| | 飼育水温 | 27.5 | | | |
| 通算 | 飼育日数 | 100 | 60 | 55 | |
| | 取揚全長範囲 | 49.1-88.2 | 19.8-54.8 | 22.2-50.6 | |
| | 取揚平均全長 | 67.6 | 31.8 | 34.2 | |
| | 取揚尾数 | 68.2 | 103.7 | 101 | |
| | 生残率(通算) | 0.99 | 0.92 | 2.2 | |
| 種苗利用 | 用途 | 養殖 | 放流 | 放流 | |
| | 配布先 | 県内業者 | 県内業者 | 県内業者 | |
| | 配布サイズ | 59.5-72.4 | 26.1-40.9 | 34.2 | |
| | 配布価格 | 56円/70mm | 10円/25mm | 10円/25mm | |